

知床の山旅

工業3回生 渡辺五郎

7月19日（晴れ） 斜里岳

17日夕刻、仙台港を発ち18日の午前11時に苫小牧港に到着。今回の北海道遠征、フェリーの移動を含めて9泊10日で日程を組む。

前半の天気が良くなったので釧路湿原を見学する計画を中止し苫小牧から道東の斜里岳登山口、清里町まで360kmの移動し道の駅「パパスランドさつつる」ここはお風呂とビールが飲める食堂があり車中泊する。午後8時からすぐ近くの小学校跡地で地元の地区のサプライズ打ち上げ花火が私を歓迎？する。

斜里岳の登山口、清岳荘から登る。ルートは沢沿いの中で風が通り心地いいが歩きづらい。

地図のコースタイムとほぼ同じ、3時間半で山頂着。



海別岳の向こうに羅臼と硫黄岳が見える

北東方面に知床の半島の山々、明日登る羅臼を確認する。東側の根室海峡、雲の上に国後島の山々が連なり、北側にはオホーツク海を見下ろす。下りのルートは尾根コース、眺望を楽しみながら登山口に向かう。



尾根ルートからの斜里岳（中央奥）



大きなエゾブキ

今夜の宿はウトロの岩尾別温泉にある「ホテル地の涯」ジョッキでサッポロクラシック、今日の慰労と明日のヒグマとの出会いを忘れようと2杯も飲む。なぜかサッポロクラシックは缶や瓶よりジョッキが美味しいのだ。

7月20日（晴れ） 羅臼岳

今日は月曜日、登山者は少ないと思っていたが賑やかだ。

木下小屋からの登山口を4時50分発、私より早い人達は多くいる様子だ。登山口のヒグマ目撃情報、登山ルートに7月に入り2件の目撃が書きこまれていた。考えていたより少ないので安心する。

登山地図の説明でルートの途中「ヒグマの出没頻度が非常に高い」場所が2カ所、樹林帯と大沢と呼ぶ見通しが良く雪解けが終わり草の芽が出てヒグマの餌場になりそうな場所であったが、登山者はほぼ同じ時間帯から歩き始め時々人の気配、鈴の音、仲間との話し声が聞こえる。

エゾツツジや大きな花のチシマノキンバイの咲く大沢を登りきるとフードロッカーのある羅臼平、広々して解放感を感じる。



大沢のエゾツツジ



羅臼平からの羅臼岳

羅臼平から暫くすると岩場になり慎重に登る。山頂着 9 時 55 分、とうとう来てしまった知床の山、羅臼岳！

北東側は三ツ峰、硫黄岳から先の知床岳、その先はシレットコ、文字通り地の涯なのだ。東には昨日より大きく見える国後島がどっしりと横たわり、北西側はオホーツク海、南西側には一昨年登った雌阿寒岳が遠くに、好天に恵まれ幸せな時間を過ごす。



羅臼岳山頂、眼下に羅臼平と三ツ峰、硫黄岳



北方領土、国後島に近い

7月21日（晴れ） 知床巡りの一日

昨日の羅臼岳、出かける前から心配していたのは『山親父、ヒグマ』との出会いであった。

10時間を超える行動時間となったが、幸いその気配は全くなかった。考えてみれば、ヒグマが怖ければ北海道の人達は山を歩かないだろうし、札幌ナンバーを始め道内の他地域のナンバーの車が多く（レンタカーもあるだろうが内地の車は数台程度）皆、生き生きと山歩きを楽しんでいた。

私も一昨年の雌阿寒岳、トムラウシ、羊蹄山等から今回の斜里岳と羅臼岳を好天の中、無事に登頂することが出来、下山後ホテル地の涯で汗を流し安堵感の中、道の駅「うとろ、シリエトク」で車中泊、美味しいビールを飲んだ。

今日は知床巡りで一日過ごす。

最初はカムイワッカ湯の滝に向かう。カムイワッカ、アイヌ語で神の水というのが酸性が強く暖かい。次は知床五湖、高架木道を歩き一湖、羅臼岳から硫黄岳の山並みを湖面に映している。



知床五湖の一湖に映る知床連山

そして今日のハイライト、知床岬巡りの観光船オーロラ号、4時間近い船旅、途中に絶滅危惧種の海鳥ケイマフリ、断崖が続くが岬は平坦な草地で赤い灯台が設けられていた。観光船は2隻で運用されていたが冬場は網走で流氷観光に使われている。



シレットコ、アイヌ語で地の涯 知床岬

ウトロに戻り知床横断道路の知床峠、東の羅臼側はガスの中、ウトロ側は晴れの天気、海風の影響を受ける知床では山並みの東と西では大きく違いが分かる。

峠から降り知床財団が運営する「知床自然センター」の見学、知床財団は知床の自然保護を目的とする公益財団、ここにあった知床のヒグマ情報は7月から毎月10数件、今日まで200件を超えたが人身事故はゼロ、と説明があった。連泊する道の駅の隣に環境庁の「知床世界遺産センター」がありこの見学で一日を終えた。

この日まで好天が続き22日は層雲峡に雨の中向かったが、計画していた大雪のお鉢巡りは雨で中止、最終日は夕張市の「石炭博物館」で夕張、空知の歴史を学習、2日間日程を短縮して苫小牧港を発った。